

事業系ごみ処理の正しい 処理にぜひご協力を！

一般家庭以外のごみは「ごみステーション」に出すことはできません。
あなたのお店や事務所は正しくごみ処理をしていますか？

市が行うごみ収集業務は、一般家庭から出るごみを対象としています。事業系ごみは、事業者が自らの責任で処理することが法律などで義務付けられています。事業所の職種や規模、種類、ごみの量の多少にかかわらず、事業系ごみは、地域のごみステーションに出すことはできません。事業所の皆さんには、もう一度ごみの処理方法を確認していただき、ごみの減量化および適正処理に対して、より一層の取り組みをお願いします。

事業系ごみとは

一般家庭以外から出るごみはすべて

て事業系ごみで、飲食店やスナック、各種事務所、店舗、旅館、ホテルなどの事業活動に伴って出る廃棄物のことです。店舗や事務所が住まいと一緒に(店舗併用住宅)の場合であっても、家庭から出るごみ以外は事業系ごみになります。このうち、産業廃棄物に該当しないごみを「事業系一般廃棄物」といいます(下図参照)。

事業系ごみの処理方法

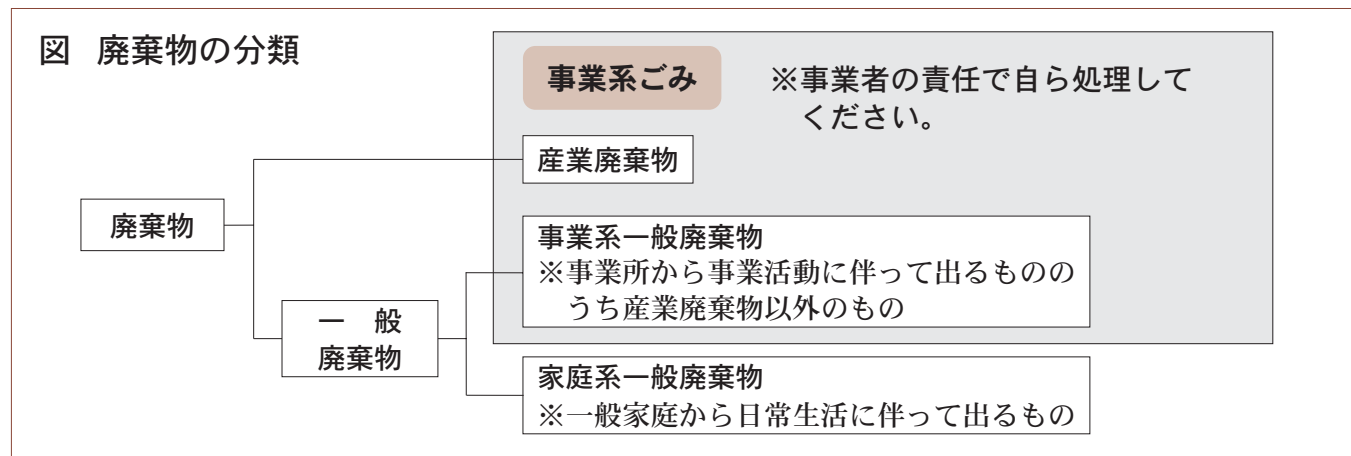
- ◆事業系一般廃棄物
事業系一般廃棄物の処理方法は、次の2つがあります。
- ① 自らが各クリーンセンターに搬入する方法



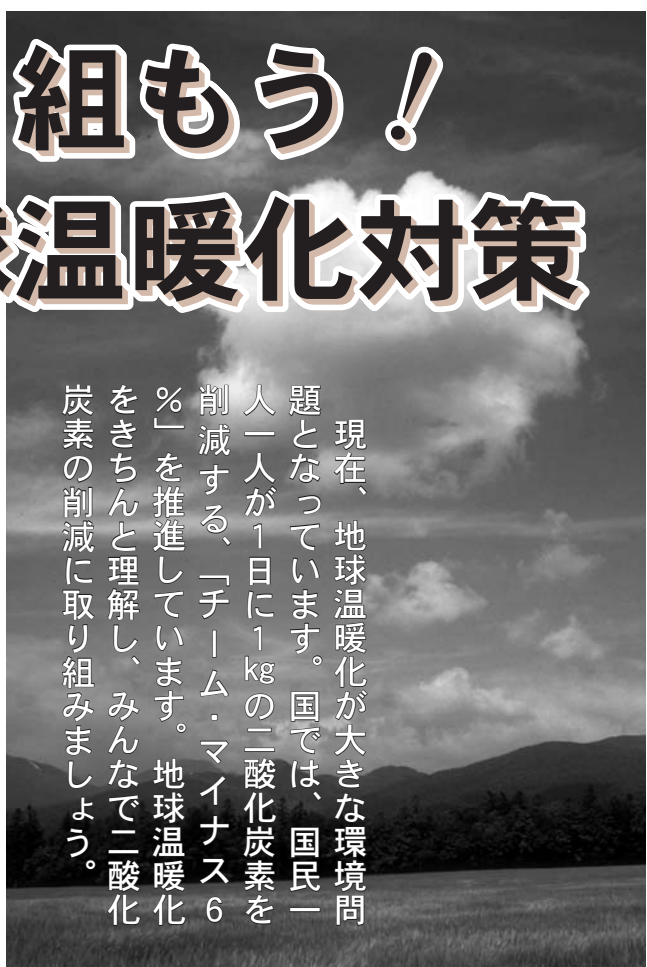
処理料金
燃えるごみ：10kgにつき50円
燃えないごみ：10kgにつき100円
② 市が許可している一般廃棄物収集運搬許可業者へ委託する方法
ごみの量や収集回数など、さまざまな条件により異なります。

◆産業廃棄物
廃油や汚泥、建設廃材など法律で定められた20種類の廃棄物を産業廃棄物といいます。産業廃棄物は、市の施設では処理ができないため、栃木県知事の許可を受けた処理業者へ処理を依頼してください。

くわしくは 環境課廃棄物係
☎(21)5152



みんなで取り組もう！ 地球温暖化対策



現在、地球温暖化が大きな環境問題となっています。国では、国民一人が1日に1kgの二酸化炭素を削減する、「チーム・マイナス6%」を推進しています。地球温暖化をきちんと理解し、みんなで二酸化炭素の削減に取り組みましょう。

地球温暖化って？

地球を包む大気には二酸化炭素などの温室効果ガスが含まれており、太陽によって温められた地表の熱が宇宙へ逃げるのを防いで、人間が生活しやすい一定の温度に保っています。この温室効果ガスの大部分を占める二酸化炭素が増えると、ガスの濃度が高くなり、熱の吸収量も増加してしまいます。これにより、地球の気温が次第に上昇する現象を「地球温暖化」と呼びます。

「二酸化炭素(CO₂)」削減チャレンジメニュー

1日のCO ₂ 削減量	家庭でのチャレンジメニュー
371g	風呂のお湯を利用して身体や頭を洗い、シャワーを使わない
207g	自動車の発進時にふんわりアクセル「eスタート」をする
180g	通勤や買い物の際にバスや鉄道、自転車を利用する
96g	冬の暖房時の設定温度を22℃から20℃に2℃低くする
86g	間隔をあげず入浴をする
83g	夏の冷房時の設定温度を26℃から28℃に2℃高くする
74g	シャワーの使用時間を1日1分短くする
73g	加速の少ない運転をする
65g	主電源をこまめに切って待機電力を節約する
63g	アイドリングを5分短くする
62g	買い物の際は、マイバッグを持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ
52g	ゴミの分別を徹底し、廃プラスチックをリサイクルする
45g	白熱電球を電球型蛍光灯に取り替える
37g	ジャーの保温をやめる
37g	暖房の利用時間を1時間減らす
26g	冷房の利用時間を1時間減らす
18g	冷蔵庫に物を詰め込み過ぎない
15g	使わないときは温水洗浄便座のフタを閉める
13g	テレビを見ないときは消す(ブラウン管テレビ)
7g	風呂の残り湯を洗濯に使いまわす
6g	水筒を持ち歩いてペットボトルの使用を削減する
5g	ガスコンロの炎をなべ底からはみ出さないように調整する

(出典：「チーム・マイナス6%」めざせ！1人1日1kg CO₂削減 私のチャレンジ宣言)

行、農林業への打撃など、自然や生活環境に悪影響が広がります。

私たちにできる温暖化対策

二酸化炭素は皆さんの家庭のさまざまなところから排出されます。これを削減するには、常に「もったいない」という意識を持ち、無駄のない生活に取り組むことが大切です。

皆さんも、家庭での「もったいない」を常にご心掛け、無駄のない生活を送ってみませんか。右表のチャレンジメニューを参考に、1人1日1kgの二酸化炭素の排出削減に取り組んでみましょう。

くわしくは 環境課環境係

☎(21)5152